

中医学由来の中国語“上火”の和訳に関する研究¹⁾

中国学科
袁 曉 今

1. 問題提起

本来、翻訳論的には、専門用語はやさしい。言語をコード(表現・解釈のために取り決めた記号体系)という観点からみると、科学用語ではコードに制約される程度が大きく、逆に話者の主体性は小さい。コード制約の大きい順に列挙すると、「自然科学言語→法律用語→日常語→美的言語(文学言語、特に詩語)」となる。(平子 1999:147-148)

従って、自然科学の翻訳では、同定された普遍的なものを表す単語については、起点言語(source language)から目標言語(target language)に置き換えて完了することが多い。即ち、「解釈」する余地が少なく、一対一で「対応」させれば、事足りるのである。

そうであれば、医学用語の“上火”を日本語に訳す際にも苦労はないはず。例文(1)²⁾はその例である。しかし、実際には、全くそうではなく、非常に厄介である。まず、以下の例文(2)以降をみていく。

- (1) 周恩来常出鼻血，大姐认为是上火，说他的体质偏热，饮食中限制他吃牛肉等。
周恩来はしょっちゅう鼻血が出る。奥さんは、それはのぼせの症状で、体内の熱量が多い体質なので、牛肉などをできるだけ避けた方がいいという。
- (2) 桔子吃多了容易上火。
?みかんを食べ過ぎると、のぼせやすい。
- (3) 我这两天上火，牙疼。
?私はこの二、三日のぼせているので、歯が痛い。
- (4) 队员状态不佳，教练上火了，寝不安，饭不想。
*選手達のコンディションが良くない。監督はのぼせて、不眠と食欲不振に陥った。
- (5) 他考大学没考好，上火了。
*彼は大学受験に失敗して、のぼせている。
- (6) 家长为了孩子升学的事儿着急上火。
*親は子の進学のこと焦って、のぼせている。
- (7) 钱被骗走了两千，真叫人生气上火。
*二千元を騙し取られた。本当に腹が立って、怒っている。
- (8) 我长寿的秘密是不着急上火。
*私の長寿の秘訣は焦らず、のぼせ/怒らないことだ。
- (9) 他娘病成这样，他咋不着急，不上火呢？
*母親の病状はかなり深刻なのに、彼はどうして焦りもせず、のぼせ/怒らないのか。

(2)は中国語では、日常的に使う表現であるが³⁾、「みかんを食べすぎると、のぼせる」という表現が日本語として受け入れられるのか、この問題にまず悩まされた。日本人に(2)を日本語で伝えたい時に、どう言ったらいいのかわからず、“上火”を複数の中日辞書で調べてみた。そこには、「のぼせる」と「(方言)怒る」の二つの意味項目しか載っていない。しかし、日本語話者には、「みかんを食べすぎると、のぼせる」と言っても、「のぼせるってどういうこと?」と、神妙な顔でして聞き返される。ましてや、「みかんを食べすぎると怒る」は論外である。上記の(3)の例文も同様の問題に直面する。さらに、例文(4)、(5)、(6)、(7)、(8)、(9)は、“上火”を「のぼせる」、一部を「怒る」と訳しても、日本語として正確に通じないことを複数の日本語母語話者から確認した。ところが、ほとんどの中日辞書は、“上火”に「のぼせる」のみで対応させているのが現状である。その結果、何人かの中国語学習者に“上火”を含む例文を訳させたところ、当然ながら、全員が「のぼせる」と訳出していた。しかし、それが正鵠を射ていないことには気づいている。

“上火”の和訳問題に関しては、幾つかの留意点がある。第一、中日辞書における“上火”とその訳である「のぼせる」との間には埋め難いズレがある。第二、“上火”は確かに中医学由来の言葉であるが、日常生活でも使用頻度が非常に高い言葉である点を見逃してはならない。第三は以上の二点を踏まえ、辞書に記載されている注釈に囚われ過ぎてはならないということになる。このような現状認識に立って、“上火”の和訳における問題点を明らかにした上で、翻訳法に改善の余地があることを本論文の研究目的とする。

2. 先行研究

赵梦璐(2015)は、まさに本論文と同様の問題意識を出発点としている。即ち、使用頻度の高い“上火”を上手く日本語に訳すことができないという、自らが抱え込んだ問題に取り組んだ。“上火”の和訳に関する論文が皆無の中、その空白を埋めた論文と位置づけても良いと考えている。評価すべき点が二つある。

一つ、文学作品を用いて、翻訳結果を検証したことである。2012年のノーベル文学賞を受賞した莫言の小説『师傅越来越幽默』、『四十一炮』にあった“上火”の用例各一か所を取り出し、それぞれに対応する和訳版、『至福の時』(訳者:吉田富夫)、『四十一炮』(訳者:同前)の中で訳された結果を検証した上で、前者には「意味の誤解」があり、後者には「意味のずれ」があったと述べている(赵梦璐 2015:18-19, 23)。問題提起としては説得力があり、おおむね首肯できる。しかし、論文中に日本語の誤りがあり、解説も不足しているため、後に 4.1. で再録し、筆者の解説を加える。

二つ目、“上火”を「のぼせる」と、「簡単に一言で翻訳するのは不可能であるため、“上火”の使われる場面を細かく分けて、その場面に応じて適切な翻訳をしなければならない」と指摘し、(赵梦璐 2015:24-26)「身体的な症状」と「心理的な症状」とに分けてその適訳を考えたことである。

しかし、赵梦璐(2015)は「正しく訳せていない」理由は「日本にはそれに当てはまる語がないだけでなく、この概念さえもない」と述べ、論文の紙幅の大半を中国文化における「陰陽」、「五行」、「五臓」の紹介や「中医学」における“上火”と「のぼせ」の原因、症状及びその療法、予防法の叙述に費やした。さらに、“上火”の和訳の提案については、「体調が悪い」、「ストレス

が溜まっている」の二通りだけに留まった。これは、不十分であったと言わざるを得ない。

この先行研究を踏まえて、以下の手順に従って、論を進めていく。

まず、日中の医学専門文献や情報誌における“上火”と「のぼせる」の定義、原因と症状について調べる。次に、辞書における“上火”と「のぼせる」の注釈及び対訳の例文について調べる。さらに、コーパスから“上火”と「のぼせる」の例文を抽出し、語用におけるそれぞれの原因と症状を洗い出す。その後、医学文献、辞書、コーパスにおける“上火”の記述と「のぼせる」の記述とを照らし合せ、両者の意味と用法のズレについて考察する。最後に、以上の考察を踏まえ、“上火”構文の類型を細分化し、それぞれの類型に合わせた和訳を提案する。

3. 中国語の“上火”及び日本語の「のぼせる」についての調査

本論文はあくまでも言語学・翻訳論の範疇にあり、医学的な見地から指摘する立場にない。しかし、可能な限り正確な和訳を検討するために、医学の観点を借用する場面もある。

3.1. 中医学における“上火”の概念

中国知网(CNKI、中国学術雑誌データベース)で“上火”というキーワードを含む論文を検索した所、五篇の中医学文献を得た。「定義」、「原因」と「症状」の三点の内容に限定し、関連する記述を抽出した。

3.1.1. 定義

钱苏海・钱俊华(2015:430)では、古代の中医学文献に基づき、「邪火(中医学では疾病を引き起こす要因を指す)」が下から上へ逆上することによって引き起こされる面部の症状を“上火”と定義した。魏云平・邓杨春(2019:312)では、古代の文献研究を継承し、以下の三つの角度から“上火”の定義を紹介している。「阴阳(陰陽)」の角度から、「陽が余ること」を“上火”と呼ぶ。「气血(気と血、生命エネルギーである気と、気を全身に運ぶための血)」の角度から、「気が余ること」を“上火”と呼ぶ。「五脏(五臓)」の角度から、「五臓間の気の運動が下降せず、上昇すること」を“上火”と呼ぶ。

谢冠群・钱俊华・范永升(2017:2869 -2871)では、現代においては“上火”は中医学の専門用語であると同時に、日常生活の中でも広く使われているため、現代における“上火”の定義を新たに以下のようにした。「精神的緊張、過労、辛い食品・高カロリー食品や薬品によって引き起こされた人体の頭部、顔面、口、舌、歯茎、咽喉、目、鼻などの部位の皮膚粘膜の赤み、腫れ、発熱、痛み、潰瘍が伴う現象を主な症状(全身に症状がみられるケースもある)とする繰り返されやすい軽い中医学上の疾病である」。また、現代医学でのいわゆる「亚健康状态(亚健康状態)」に当たるとも指摘している。

3.1.2. 原因

五篇の文献に記述された“上火”の原因を以下のようにまとめた。

外的誘因: 気候・気温の変化、激しい運動、夜更かし、過労

内的誘因: 体質、内傷、飲食(焼肉などのグリル食品・香辛料などの刺激性食品・チョコレートなどの高カロリー食品の摂取、薬品や滋養強壮剤の服用、栄養過剰・栄養失調、水分の不

足など)、緊張感、感情の起伏、精神的ストレス

3.1.3. 症状

3.1.1. 定義の中でも述べたように、人体の頭部、顔面、口、舌、歯茎、咽喉、目、鼻などの部位の皮膚粘膜の赤み、腫れ、発熱、痛み、潰瘍などの症状、また、全身の症状も見られる。(谢冠群・钱俊华・范永升 2017:2871)、具体的に、五つの文献が触れた症状を網羅すると以下ようになる。

顔面紅潮、顔の湿疹、赤目、ドライアイ、耳が赤い、唇の血色が悪い、舌が赤い、舌苔が黄色い、舌苔が少ない、歯茎の腫れと痛み、歯痛、口内炎(口腔潰瘍)、口と喉の渴き、喉の痛み、耳鳴、空咳、痰に血が混じる、尿が赤い、便秘、脈拍が早い・遅い、寝汗、虚弱、いらつき、焦燥感、眩暈、不眠、健忘症、腰が怠い、夢精など。

3.2. 現代医学における「のぼせる」の概念

3.2.1. 定義

一般に顔、頸、頭部などの充血感、熱感をいう。正常人の安静時の血液分布は、50%が体循環の静脈系、12%が心臓内、8%が肺循環にほぼ集約され、残部が動脈、細動脈、毛細血管などにあてられ、のぼせ感を与えるような偏在血量はきわめて少量とされている。生理学上は、自律神経系の部分的機能障害と解されている。医学的に厳密な定義はない。(出典:『ブリタニカ国際大百科事典』)

3.2.2. 原因

「のぼせ」を引き起こす原因については、「一般社団法人日本女性心身医学会(JSPOG)」、「時事メディカル(時事通信が運営する医療情報サイト)」、「メディカルノート(Medicalnote、現役の医師が運営する医療 Web メディア)」より採集した。以下のようにまとめることができる。

偏食、肉類の過食、香辛料、アルコール類などの刺激物の過度な摂取、ウイルス感染症、更年期障害症、甲状腺機能亢進症、自律神経失調症、多血症、高血圧、熱中症、風邪、運動不足、気温の急な変化、室内の暖房が強すぎる時、長時間の入浴、緊張感、羞恥感、ストレス。

以上に列挙した原因のうち、発症原因となる疾病については、下線で示した。

3.2.3 症状

上記の三つのサイトから症状を抽出して、以下のようにまとめた。

顔面紅潮、発熱。

また、「のぼせのほか/のぼせと共に、頭痛、眩暈、ふらつき、喉の渴き、動悸、手の震え、手足のしびれ、血圧の上昇、倦怠感、不眠、いらいらする、汗をかく症状もある」のような記述があり、この文脈からすると、ここに列挙されたこれらの具体的な症状は「のぼせ」そのものではなく、「のぼせ」と平行して起こる症状、または「のぼせ」を契機として起こる症状であると考えられる。

3.3. 辞書における“上火”と「のぼせる」の注釈

3.3.1. 中国語辞書における“上火”に関する注釈

まず、『現代汉语词典』、『現代汉语大词典』、『辞源』、『辞海』で“火”について調べた結果、以下のような意味項目が得られた。①(名)火氣，中医指引起發炎、紅腫、煩躁等症狀的病因，与風、寒、暑、濕、燥合称为六淫。(名詞、火氣。中医学では、炎症、腫れ、焦燥などの症状を引き起こす病因を指し、風、寒、暑、濕、燥と併せて、「六淫(六種の病因)」と呼ばれている)。②暴躁的脾气(激しい気性)。③人体中的热量(人体の熱量、カロリー)。④(～儿)(名)怒氣((～儿、名詞)怒氣)。⑤(～儿)(動)比喻發怒((～儿、動詞、比喻)怒り出す)。

“上火”⁴⁾について、『現代汉语词典』は以下のように注釈している。①(動)中医把大便干燥或鼻腔黏膜、口腔黏膜、結膜等發炎的症狀叫上火((動詞)中医学では、便秘、鼻腔黏膜、口腔黏膜、結膜などの炎症を上火と呼ぶ)。②(～儿)(方)發怒((～儿、方言)⁵⁾怒る)。

3.3.2. 日本語辞書における「のぼせる」に関する注釈

『大辞泉』では、「のぼせる」について、以下のように注釈している。①血が頭へのぼって、ぼうっとなる。上気する。②すっかり夢中になる。熱中する。③思い上がる。うぬぼれる。④興奮して理性を失う。血迷う。逆上する。『スーパ大辞林』、『新明解国語辞典』、『明鏡国語辞典』などを調べても、この四つの意味項目で収まっている。

3.3.3. 中日辞書における“上火”に関する注釈と例文

『中日辞典(小学館)』の注釈と例文

①(中医)のぼせる。便秘または鼻腔・口腔などの炎症をさす。

ア 他这几天上火了，老流鼻血。

彼はこの2、3日**のぼせている**ので、よく鼻血が出る。

②(方言)怒る。かっとなる。例文なし。

『講談社中日辞典』の注釈と例文

①(中医)のぼせる。

イ 这两天有点儿**上火**，嘴角都起了泡。

この2、3日ちょっと**熱っぽかった**ので、口の端に水ぶくれができた。

②(方言)怒る。かっとなる。

オ 碰到这种事着急**上火**都没用。

こういうことになったら**いらいらして**はらを立ててもはじまらない。

『中日大辞典』の注釈と例文

①(中医)のぼせる。とくに顔面部にでる。

ウ **上火**下寒 **顔面ののぼせ**と手足の冷え

②(～儿)怒る。かんしゃくをおこす。

カ 无论怎样讽刺他，他从来不**上火**。

どんなに彼をあてこすっても彼は一向に**怒った**ことがない。

『中国語辞典』の注釈と例文

① (動詞) (漢方)のぼせる。

エ 他这几天有点儿上火, 眼睛红红的。
彼はここ数日**のぼせていて**, 目が真っ赤だ。

② (方言) (～儿)怒る。かっとなる。

キ 看着她这副蛮劲, 谁都会**上火**的。
彼女の横暴さを見たら, 誰でもきつと**かっとなる**。

3.3.4. 日中辞書における「のぼせる」に関する注釈と例文

『日中辞典(小学館)』では、以下のように注釈している。① 头部充血, 上火(上気する); 头昏脑涨(くらくらする)。② 热中, 迷醉, 沉溺(夢中になる)。③ 晕头转向, 冲昏头脑, 头脑发热(理性を失う)。ほかに『講談社日中辞典』、『岩波日中辞典』、『日汉辞典』で調べたところ、④ 喪失理智, 激昂(逆上する)という意味項目が得られた。

四つの辞書から意味項目①に関する例文を抽出してみると、原因と症状の両パターンが見られた。

原因についての例文:

ア 長湯をして のぼせる 。	→ 洗澡时间过长而 头晕 。
イ 風呂で のぼせる 。	→ 因洗澡而 脸上发烧 。
ウ 恥ずかしさのあまり、 のぼせた 。	→ 羞得 面红耳赤 。
エ 暑さで のぼせる 。	→ 热得 头昏脑胀 。
オ 満員電車で閉じ込められて のぼせた 。	→ 憋在满员的了的电车中 头昏脑胀 。

症状についての例文:

カ のぼせて 、頭がぼうっとなる。	→ 上火 而头晕。
キ のぼせて 、鼻血が出た。	→ 上了火 , 出了鼻血。

3.4. コーパスによる“上火”と「のぼせる」の用例の考察

北京大学語料庫(CCL)で“上火”を検索した結果、調理用語の「材料の上方から火を当てる」という意味を除き、256文を収集することが出来た。3.3.1. で示した①番の意味項目、つまり「のぼせる」の意味で使用された例文数は210あり、②番の意味項目、つまり、「怒る」の意味での例文は46あった。そこで、210文から、“上火”の共起する原因と症状について、以下のようにまとめた。(数字は例文数)

3.4.1. “上火”の原因

ア ストレス	28	(感情の起伏 13 例: ショック、動揺、不安、鬱憤、羞恥、落ち込み)
		(生活の不満 15 例: 金銭的困窮、道路の渋滞、家電の不具合、トイレの混雑、親族知人の心配)
イ 飲食	24	(例: チョコレート、牛肉、羊肉、犬肉、揚げ物、火鍋、唐辛子、朝鮮人参山芋、ライチ、マンゴー、アルコール飲料、野菜や水分の不足)
ウ 失敗	17	(例: 戦績不振、商売の不況、貴重品の紛失)

- エ 疲労 14 (例:仕事の忙しさ、大変さ、テンポの速さ、旅・長時間の移動)
- オ 気候・気温 10 (例:乾燥、暑さ)

3.4.2. “上火”の症状

- ア 口・唇 10 (水ぶくれ9、唇の血色が悪い1)
- イ 口腔 7 (口内炎・口腔潰瘍5、口の渴き2)
- ウ 歯 7 (歯痛・歯茎の腫れ6、歯の脱落1)
- エ 目 6 (麦粒腫1、結膜炎1、目のくぼみ1、目脂1、充血1、痛み1)
- オ 顔 5 (吹き出物・ニキビ4、腫れ1)
- カ 鼻 5 (鼻血4、吹き出物1)
- キ 喉 4 (咽喉炎2、痛み1、声のかすれ)
- ク 耳 2 (耳鳴1、痒み1)
- ケ 皮膚 2 (汗疹1、搔痒感1)
- コ 消化器・肛門 14 (便秘8、下痢2、腹痛2、血便1、痔1)
- サ 泌尿器 2 (尿が黄色い1、尿が臭う1)
- シ 精神・神経 10 (食欲不振4、焦燥感3、睡眠障害2、緊張感1)
- ス その他 7 (倦怠感2、暑がり2、眩暈1、発熱1、持病の悪化1、急病1、不整脈1)

次に、国立国語研究所の現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)少納言で「のぼせる」に関して検索した結果、「話題に取り上げる」という意味及び重複引用を除き、140文を収集した。3.3.2.で示した①番の意味項目での構文は70あり、②番、③番、④番の意味項目で使用されるケースの例文数も70あった。「のぼせる」と共起する原因と症状について、以下のようまとめた。(数字は例文数)

3.4.3. 「のぼせ」の原因

- ア 入浴 17
- イ 更年期 13
- ウ 冷え症 5
- エ ストレス 4 (例:警察の取り調べ、考え過ぎ)
- オ 飲食 3
- カ 気温 3
- キ 薬の副作用 2
- ク その他 2 (例:花粉症、出産後)

3.4.4. 「のぼせ」の症状

- ア 顔 2 (顔面紅潮1、顔が熱い1)
- イ 歯 1 (歯茎の腫れ1)

ここでも、前述した医学文献同様に、例文では、「のぼせ」と平行して起こる諸症状として、手足のほてり、口内炎、吹き出物、鼻血、心悸、眩暈、便秘、不眠、焦燥感、頭痛などが数多く記

述されている。ここから判ることは、「のぼせと平行して起こる」、あるいは、「のぼせを契機として起こる」症状は多いが、それを除外していくと、「のぼせ」それ自体の症状は実は僅かであるということである。

3.5. “上火”と「のぼせる」の概念におけるズレに関する考察

3.1.～3.4.の内容をまとめると、以下のことが明らかになった。

ア 医学文献による「のぼせ」の原因についての記述の中では、病気によるものが目立つ。しかし、日本語コーパスで得られた「のぼせ」の原因についての記述は比較的少なく、更年期障害以外はほとんど見られなかった。コーパスでは「入浴」と「更年期」が主要原因となっている。辞書の例文からもその裏付けが取れる。日本語辞書四種の内三種、日中辞書四種全てが「長湯、風呂」で「のぼせる」を用いた例文を挙げている。

イ 中国語コーパスで得られた“上火”の原因についての記述は、中医学文献による記述とほぼ一致しているが、コーパスでは、「ストレス」、「飲食」が主な原因となっている。これは、日本語の「のぼせ」の原因とは大きく異なる。因みに、「入浴」や「更年期」による“上火”の例文は一例(長風呂)しか見つからなかった。

ウ 医学文献による「のぼせ」の症状についての記述は非常に少ない。日本語コーパスでみつけた症状についての記述はさらに少なく、「顔面紅潮」、「歯茎の腫れ」の二点のみである。これが、一般の日本人が「のぼせる」に対して持つ認識(=限定的な狭い意味)を如実に反映していると考えられる。

エ 中医学文献による“上火”の症状についての記述は身体的な症状(頭部、面部、頸部及び全身の症状、しかも、いずれも炎症がキーワードである)が中心であるが、コーパスでは、“上火”の症状は身体的な症状をはじめ、精神的な症状、または身体的な症状と精神的な症状の併発など、多岐に亘っている。これも、日本語の「のぼせる」と大きな隔たりがある。この現象は、一般の中国人の“上火”に対する認識を理解する上では一助となる。中国人は日常生活の中で、“上火”に広い意味を付与していて、体の不調、精神的な不安など、多くの場面で“上火”を使用している。

オ さらに、そもそも現代医学における“上火”と「のぼせる」の定義には曖昧さがある。中国では、「半健康状態」、日本では、「厳密な定義がない」とされ、これが両者の対応関係、対訳を難しくする一因になっている。

以上のことを総括すると、原因においても、症状においても、“上火”と「のぼせる」の間では、重なり合う部分はあまり多くないことが分かった。次頁の表1の下線、表2のグレーでそれを示した。ここから分かるように、“上火”にいつも「のぼせる」を用いて対応させるのは「乱暴な置き換え」と言わざるを得ず、「のぼせる」だけでは役不足である。しかし、辞書に載っている唯一の訳語である「のぼせる」を除くと、訳す術を失い、「翻訳不能論」に陥る恐れもある。後に、4.では、それについて論述するが、起点言語と目標言語の間には、文化の違いという「壁」があり、そこでは翻訳者の主体性が要求される。

また、表1にあるように、辞書における意味項目のズレにも注目すべきである。“上火”には「怒る」という意味があるが、「のぼせる」には、それが無い。また、「のぼせる」には「夢中になる」、「思い上がる」、「理性を失う」という意味があるが、“上火”には、それらが無い。

	上火			のぼせる					
	中医学文献	辞書	コーパス (例文数順)	医学文献	辞書	コーパス (例文数順)			
1	顔面紅潮		口に水ぶくれ	顔面紅潮	意味項目 ①	上気する(顔面紅潮)	顔面紅潮		
2	くらくらする		便秘	発熱		くらくらする	歯茎の腫れ		
3	便秘	意味項目 ①	便秘 歯痛及び口腔粘膜の炎症 (<u>歯茎</u> を含む)		※例文では「 <u>鼻血</u> 」の例がある				
4	<u>鼻血</u> 及び鼻腔粘膜の炎症							鼻腔粘膜の炎症	結膜の炎症
5	歯痛及び口腔粘膜の炎症 (<u>歯茎</u> を含む)							口腔粘膜の炎症	<u>鼻血</u> 及び鼻腔粘膜の炎症
6	結膜の炎症							結膜の炎症	口腔粘膜の炎症
7	耳、喉の炎症							その他炎症	顔及び全身皮膚の炎症
8	皮膚の炎症		精神性諸症状 (食欲不振、焦燥、不眠、緊張等)						
9	精神性諸症状 (不眠、焦燥、夢精、健忘等)							耳、喉の炎症	
10	その他(呼吸器、泌尿器、循環器、代謝、汗など)軽い症状	意味項目 ②	怒る	その他(泌尿器、循環器、消化器、 <u>発熱</u> 、倦怠感、 <u>くらくらする</u>) 軽い症状	意味項目 ②③④	夢中になる 思い上がる 理性を失う			

	上火		のぼせる	
	中医学文献	コーパス (例文数順)	医学文献	コーパス (例文数順)
1	ストレス	ストレス	入浴	入浴
2	飲食	飲食	更年期	更年期
3	睡眠不足	失敗経験 (試合、生活、商売…)	疾病(ウイルス感染症) (甲状腺機能亢進)(自立神経失調) (多血症)(高血圧)(熱中症)(風邪)	冷え症
4	疲労	疲労	ストレス	ストレス
5	外感(気温)	気温	飲食	飲食
6	緊張、感情の起伏		気温	気温
7	激しい運動		運動不足	薬の副作用
8	内傷		緊張、羞恥	その他(花粉症、出産)

下記の例文のように、中国語コーパスに見られる“上火”を含む 256 例文のうち、「怒る」の意味で使用されている例文は 40 に上る。例文数から見ると、使用頻度はかなり高いと言える。

(10) 啊，王队长，别上火，我是和你开个小玩笑。

(10') あ、王隊長、怒らないで、冗談、冗談だよ。

「怒り」は「喜怒哀楽」の一種で、人間の自然な感情であり、身体的な異常や精神的な異常とは別のものであるが、「怒り」によって、カッとしたり、興奮し、頭に血が上るという事態になれば、もはや「正常な状態」ではなく、一時的な身体と精神の異常と見なすことができる。そうすると、意味項目②の「怒る」は意味項目①の意味拡張であり、両者は核心部分で繋がっていると考えられる。

同じコーパスの例文中には、“生气上火”、“上火生气”、“上火动气”、“生气，上火”を含む例文も多数あった。つまり、「生气(腹立つ)」、「动气(怒る)」などの言葉とセットで現れることも少なくない。

(11) 一个平民百姓，派人抓来也就行了，何劳大王生气上火?

(11') 一介の庶民、捕まえてきてよろしい。大王はこの件で怒ったりする必要は全くない。

さらに、同じコーパスの 256 例文中、“着急上火”、“上火着急”、“心急上火”、“着急，上火”、“上火，急”“急上火”、“急得上火”、“上火发愁”、“毛躁上火”を含む例文は 61 に上る。これらの例文では、「着急(苛立つ)」、「急(焦る)」、「发愁(気が沈む)」、「毛躁(落ち着きがない)」などの精神的なダメージを表す言葉と共起するケースが多い。

(12) 有的学生我怎么教他都学不会，着急上火，却没有更好的教学办法。

(12') 何人かの学生は、どんなに教えても、できない。苛立っているが、私にはより良い教授法はないのである。

(13) 数日前，布什心急上火，脸上生了疖子，记者给他拍了一张面部粘着创可贴的照片。

(13') 数日前、ブッシュはイライラして、顔に腫物ができた。顔に絆創膏を貼った写真が記者に撮られた。

(14) 那段时间天灾人祸当前，着实令宋子文上火发愁不知所措。

(14') あの頃、天災人災が続き、宋子文は随分悩まされ、落ち込み、途方に暮れていた。

(12)、(13)、(14)と同じタイプの 61 の例文を観察すると、“上火”を使用しながらも、必ずしも意味の追加がある訳ではない。つまり、“上火”があってもなくても、翻訳結果に変化は生じない。同じように、(11)と同じタイプの例文中の“上火”も特に訳出する必要性は感じられない。“着急上火”と“生气上火”に含まれる“上火”はその前の“着急”と“生气”の意味を若干強調する以上の存在理由はない。あるいは、四字熟語を好む中国人がリズムのために“着急”と“生气”の後に“上火”を付加した可能性があると考えられるのか。これもまた別の興味深いテーマである。

4. “上火”の和訳

4.1. 文学作品における“上火”の和訳

赵梦璐(2015)が例として挙げた莫言の作品中の“上火”の和訳をここで確認しておく。

(15) 只有一个胖子，转到小屋后边，撒了一泡焦黄的尿。他隔着老远就嗅到了尿臊味。他心里想：领导“上火”了。 『师傅越来越幽默』 莫言

(15') ただ、デブが一人だけ、小屋の背後に回って、黄色い小便をしくさった。かなり離れた処からでも、小便臭い匂いは伝わってきた。上役に「怒鳴ら」れたな、と自分は思った。

『至福のとき』 吉田富夫訳

(15')の訳文では、“上火”は、多くの辞書で方言として扱われている「怒る」の意味で訳されているが、この前後も含めた内容を咀嚼すると、この訳にはかなり違和感が残る。彼(=話者)は「胖子(デブ)=领导(上役)」が放尿したシーンを目撃し、その尿の色と匂いから判断して、“上火”の生理的な症状の一つ(炎症によって尿の色が黄色くなり、臭いがきつくなる)であると考えたのであろう。ここは、ふつうに「この役人は体調が悪いんだなと彼は思った」と訳せばいいのではないか。しかも、「上役が怒鳴る」という状況は前後の文脈からも読み取れず、これは明らかに「誤訳」であると指摘することが出来る。「誤訳」の原因に関しては、恐らく、日本語においては、いわゆる「のぼせ」の症状には、3.2.3.や3.4.3.で考察したように、顔面の症状しか認識されていないので、辞書中の一番目の意味項目「のぼせる」と訳さずに、二番目の意味項目「怒る」に近い「怒鳴る」と訳したのではないかと推測する。もしかしたら、訳者は「黄色く臭い尿」を身体の異常のサインであると認識せず、立ち小便に対する嫌味の描写であると捉えていた可能性がある。もう一つの用例をみてみよう。

(16) 这口井里的水，透明澄澈，甘甜无比，比那些瓶装的纯净水、矿泉水的质量都要好。这样的水，本身就是琼浆玉液。许多因为上火而眼睛红肿的人，用这井里的水洗一次，眼睛马上就明亮。还有那些因为上火小便发黄的人，喝两碗我们的水，小便马上就清亮如泉。 『四十一炮』 莫言

(16') その井戸の水たるや、透き通って甘いことこの上なく、瓶詰めの蒸留水やミネラルウォーターなどよりはずっと良質でした。それ自身が玉液でして、のぼせて眼が赤く腫れあがった人間でも、ひとたびこの井戸の水で洗えばたちまち眼はぱっちり、のぼせて小便が黄色くなった人間でも、この水を飲めばたちまち小便が澄んだものです。

『四十一炮(下)』吉田富夫訳

(16)では、“上火”の症状(その一、眼が赤く腫れる、その二、小便が黄色い)を持つ人が、その井戸の水を飲めば、治るというのであるが、(16')では、いずれも、「のぼせる」と訳した。3.2.1.でも述べたように、「のぼせる」については、医学的に厳密な定義はないため、こう訳しても間違いではない。ただ、懸念されるのは、日本の読者にはこれらの症状が「のぼせ」の症状として受容されるかどうか。疑問を抱く読者がいるかもしれない。そう考えると、“上火”を無視して、症状だけを訳せば、文の理解になんらの支障もきたさない。或いは、無理して、「のぼ

せて」で対応させずに、「体調不良で」や「調子が悪くて」などのぼかして訳した方が無難であると考ええる。

4.2. 問題の所在

専門文献による記述は専門家の見識、つまり、「専門用語」であり、コーパスの例文中の記述は世間一般の認識、即ち、「日常語」寄りである、辞書の記述は、さらに、世間一般の認識の核心的な部分を抽出して概念化したもので、例文も代表的で、分かりやすい例が挙げられる。そのような考え方に立って、“上火”の和訳の問題点をここで洗い出す。

そもそも、「中医学」は中国の伝統医学のことで、日本にそのような考え方が無ければ、それに対応する適訳があるかどうかは判断し難い。

確かに中医学の専門用語である“上火”（その時点では科学言語に属する）が、次第に、3.5. で述べたように、現代中国語においては、日常語になり、厳密な中医学の専門用語とは言えなくなった。体の不調や違和感などの軽い症状を人々が“上火”として捉え、訴えるようになってきたと考えられる。疾病か半健康状態の境界線も曖昧である。また、原因や症状を突き詰めることもなく、日常生活の中で、気軽に使用されるようになった結果、意味の滲みが広がり、「便利語」にまで変容したと見ることができる。そうであれば、“上火”の翻訳は言語のコードの制約から解放され、中医学用語に囚われない訳し方を新たに考えなければならない。

中日辞書に載っている“上火”の訳語である「のぼせる」は3.5. で考察した通り、日中間における概念のズレがかなり大きいことが明らかになった。また、第二の辞書的語義の「怒る」を足しても、網羅できていない。

翻訳の対象は「ラング(langue)」ではなく「パロール(parole)」なのである(平子 1999:13)。辞書にのっている語彙はあくまで形式に過ぎない。辞書は静的なものであって、翻訳とはこれを活用する動的な行為である。翻訳のよしあしは、形式(辞書的なもの)をいかに動的に内容として生かすか、にかかっている(平子 1999:18 -19)。“上火”の和訳問題は正に動的に訳さなければならない。

問題点が明らかになったところで、コーパスの“上火”の256例文の類型を細分化し、類型ごとに訳し方を提案していくことにする。

4.3. 類型

改めて、1.で挙げた例文を再録し、その類型をしてみる。“上火”を和訳する際には、以下の九つの類型があると考えている。ここでは、類型を示すのみで、あえて□を空欄とし、後に詳しく考察することとする。

- (1) 周恩来常出鼻血，大姐认为是上火，说他的体质偏热，饮食中限制他吃牛肉等。
周恩来はしょっちゅう鼻血が出る。奥さんは、それは□の症状で、体内の熱量が多い体質なので、牛肉などをできるだけ避けた方がいいという。
- (2) 桔子吃多了容易上火。
みかんを食べ過ぎると、□を起こしやすい。
- (3) 我这两天上火，牙疼。
私はこの二、三日□、歯が痛い。

- (4) 队员状态不佳，教练^{上火}了，寝不安，饭不想。
選手達のコンディションが良くない。監督は、不眠と食欲不振に陥った。
- (5) 他考大学没考好，^{上火}了。
彼は大学受験に失敗して、。
- (6a) 家长为了孩子升学的事儿^{上火}。
親は子の進学を。
- (6b) 家长为了孩子升学的事儿着急^{上火}。
親は子の進学のこと焦っている。。
- (7a) 钱被骗走了两千，真叫人^{上火}。
二千元を騙し取られた。本当に。
- (7b) 钱被骗走了两千，真叫人生气^{上火}。
二千元を騙し取られた。本当に腹立つ。。
- (8) 我长寿的秘密是^不（着急）^{上火}。
私の長寿の秘訣は焦らず、ことだ。
- (9) 他娘病成这样，他咋（不着急），^{不上火}呢？
母親の病状はかなり深刻なのに、彼はどうしてのか。

(1)、(2)、(3)は「身体的な症状」、(4)は「精神的な症状」に属すると考えている。(5)、(6)、(7)、(8)、(9)に関しては、「精神的な症状」の延長線上にあって、「感情的な不調」と捉える。

(1)は「病気」と捉え、原因、症状、予防法について詳述している。

(2)は、原因を明言しているが、具体的な身体的症状には言及していない。

(3)は、原因に触れずに、具体的な身体的症状を追記している。

(4)は、「思い通りにいかない」ことを意味する事柄を含み、精神的な症状を述べている。

(5)は、「失敗」、「敗北」など「苦い経験」を意味する事柄を含んでいる。

(6a)は、「苛立ち」や「不安」を抱かせるような事柄を含んでいる。また、この意味で使われる場合、しばしば、(6b)のように、「着急(焦る)」及びその同義語、類義語と共起する。

(7a)は、「立腹」させられるような事柄が含まれている。こちらもしばしば(7b)のように、「生气(怒る)」及びその同義語、類義語と共起する。

(8)と(9)は否定形を取る(=“不上火” / “不着急上火”)。この場合、肯定的に捉える文脈(8)と否定的に捉える文脈(9)の二パターンがある。「単独形(=“不上火”）」と「セット形(=“不着急上火”）」のいずれの可能性もある。

4.4. 提案

4.3の九つの類型に対して、それぞれの和訳法を以下のように提案する。(Φ=訳不要)

- (1') 周恩来はしょっちゅう鼻血が出る。奥さんは、それは^{のぼせ}の症状で、体内の熱量が多い体質なので、牛肉などをできるだけ避けた方がいいという。
- (2') みかんを食べ過ぎると、^{吹き出物や便秘などの症状}を起こしやすい。
- (3') 私はこの二、三日 ^{Φ / 体調が悪く}、歯が痛い。
- (4') 選手達のコンディションが良くない。監督は^{苛立って}、不眠と食欲不振に陥った。
- (5') 彼は大学受験に失敗して、^{落ち込んでいる}。

- (6a') 親は子の進学のことで焦っている。
- (6b') 親は子の進学のことで焦っている。④。
- (7a') 二千元余りを騙し取られた。本当に腹が立つ。
- (7b') 二千元余りを騙し取られた。本当に腹が立つ。④。
- (8') 私の長寿の秘訣は焦らず、くよくよしないことだ。
- (9') 母親の病状はかなり深刻なのに、彼はどうして真剣に受け止めないのか。

(1) “上火”と「のぼせ」の症状が完全に合致している場合は、「のぼせる」と直訳する。

(2)については、みかんは大量に食べると「柑皮症」になるほか、熱量(カロリー)の高い果物であるため、吹き出物や便秘などの症状を起しやすと言われる。原文には症状についての記述がないが、この場合は「のぼせる」の典型的な症状との間にズレがあるため、「のぼせる」とは訳さず、(2')のように、中国で広く認識されている症状を加える。みかんは一例に過ぎないが、前述した様々な原因と種々の症状をリンクさせ、百科事典的知識(encyclopaedia knowledge)を動員し、臨機応変に訳す必要があると考える。

(3)に関しては、原文には“上火”の具体的な症状の一つ、「歯痛」と明記されているため、「のぼせる」とは訳さない。また、「体調不良で」、「調子が悪くて」と意味を拡大して訳した方が、違和感がないと考える。

(4)のように、「思い通りに行かない」事柄を含み、さらに、「不眠」や「食欲不振」などの精神的な症状を述べているコンテキストでは、「苛立つ」、「心配する」、「精神的に参る」や「精神的に疲れる」「ストレスが溜まる」などと訳す。

(5)のように、「失敗」や「苦い経験」を意味する事柄を含むコンテキストでは、それが原因となって、「落ち込む」という結果が伴うと推論できる。「落ち込む」及びその同義語や類義語を用いて訳す。

(6a)の文脈には、「苛立ち」や「不安」を抱かせるような事柄を含む。従って、後半に「焦る」という表現が必然的に表れると推測し、(6a')では「焦る」及びその同義語や類義語で訳す。(6b)のように、「着急(焦る)」などの言葉と共起する場合、この時の“上火”は「焦る」と意味が近いため、訳は不要で、(6b')となる。

(7a)のようなコンテキストには、「立腹」させられるような事柄が含まれている。当然、後部に「腹が立つ」や「怒る」などの言葉が現れやすい。従って、「腹が立つ」や「怒る」と訳す。(7b)のように、しばしば、「生气(怒る)」などの言葉と共起する場合、“上火”は「怒る」と意味が近いため、“上火”の訳は不要となる。

(8)と(9)の“不上火”の場合には、文脈によって訳が分かれる。肯定的に捉える(8)は、「くよくよしない」と訳出し、否定的に捉える(9)では、「真剣に受け止めない」と訳す。但し、これらは文面に即した訳の一例に過ぎない。そこで、ここでは、幾つかの例を追加しておく。肯定義から否定義という順で紹介する。

(17) 这位副队长不着急，不上火，稳稳当当，可是不好斗…

この副隊長は落ち着いたいて、穏健で、なかなか手ごわい…

(18) 他说：“我长寿的秘密是不着急上火。”

彼はこう言った。「私の長生きの秘訣は焦らない / くよくよしない / 落ち込まない / 慌て

ない/気にしないことなのだ」

- (19) 可是我从没见过他着急上火 (= 他从不着急上火), 这听起来他有些迟钝。
私は彼の悩んだり、心配したりする姿を見たことがない (= 彼は悩んだり、心配したりすることがない)。こんな言い方だと、彼は少し鈍感だというふう聞こえる。
- (20) 可他永远是一副不着急不上火的样子, 这让我心里别提有多窝心。
しかし、彼は常にのんびりしている。そののんきな様子が大いに立腹させたのだ。
- (21) 对待社会上不廉洁的现象, 不着急, 不上火, …发发牢骚, 说说怪话, 以此来满足心理平衡。
社会の不公平に対して、真剣に考えず、ただ愚痴を言ったりするだけで、心のバランスを保っている。
- (22) 振兴区机关干部吃午饭的时候, 食堂被来自亏损企业的上访群众挤满。…区长苏永胜意想不到地发现部分机关干部不着急、不上火, 有的还说风凉话。
振興区の役人が昼食をとる時間帯に、食堂は赤字企業の陳情者で溢れていた。…しかし、一部の役人らは意外にも深刻に受け止めずに、(陳情者に対して)無責任なことさえ平気で言う。このことに、蘇永勝区長は気付いたのだ。
- (23) 对于改变贫困落后面貌不着急, 不上火, 缺乏紧迫感, 在经济和条件创造方面, “等、靠、要” …
貧困をなんとか打開しようとする意欲がなく、緊迫感が欠けている。財源やインフラ整備の面においては、(自己努力をせず、ただ)「待つ・頼る・ねだる」だけ…
- (24) 考试考成这样, 你咋不知道愁呢? 不着急不上火的。没心没肺!
試験の成績はこんなに悪かったのに、なんで真剣に受け止めないの。平気でいられる/落ち込んだりしない/向上心がないの。何をぼんやりしているの!
中学生時代の筆者が試験結果の出る度に母親から言われた言葉

例文(24)の下線の部分は“不着急不上火”と類義的な表現と考えてもいい。これらの表現の訳し方も“不着急不上火”の代替訳として活用できると考える。

- (25) 她从小就是个没心没肺的孩子, 浑然一片, 随心所欲, 心神恍惚, 不求上进。
张洁『无字』
彼女は小さい時からぼんやり/あっけらかんとしていて、無知で、好き勝手に、集中力もなければ、向上心も無い。
- (26) 看客中发出了喝采声, 但不怎么热烈: “看笨的!” “还不知道愁呢!” “愁什么, 有吃有喝……”
人民日报 1956年9月8日
野次馬の中からさほど大きくないやじが聞こえてきた。「馬鹿者!」「悩みがないのか」「何が心配だ? 食べ物に困っているわけでもないし…」

さらに、下記の例文中“不当回事”、“不往心里去”も“不着急不上火”の異なるバージョンとして紹介しておく。このように見ていくと、“上火”の訳は常に動的に、頭を柔軟に

し、言葉を固定したイメージで考えないように心がけておく必要がある。

- (27) 而自己却日渐消瘦，经常恶心呕吐。通讯员多次劝他去看病，他却**不当回事**。
彼は日に日に痩せてきて、度々気分が悪くなったり、嘔吐したりする。通信員は何回も病院へ行くように勧めたが、彼は全然**意に介さない/問題視しない/取り合わない**。
- (28) 我也想发生了这么多事，刘云不可能一点儿都**不往心里去**。
こんなに多くの出来事があって、劉雲が少しも**気にかけない**はずはないと思った。

以上の考察を踏まえて、“上火”の和訳方法の提案だけに留まらず、辞書における意味項目の追加記述についても提言したい。辞書では、網羅する必要はないが、少なくとも「焦る」の語義の追加、そして、否定形を取る“不上火”についても、「慣用句」として特筆してほしいと考える。パロールを訳すことを通して、絶えず、ラングに対する知識を豊富にしていくことは翻訳研究から言語研究に向けての大きな貢献ではないかと考えている。

5. まとめ

本論文は“上火”の和訳の問題点を明らかにすることに主眼を置いた。従来は中医学由来のゆえに、中医学に囚われ、「のぼせる」の一点に固執した対応関係が作り上げられてきたと言える。しかし、本論文では、医学文献、辞書、コーパスで検証した結果、「のぼせる」と“上火”は意味内容上(原因及び症状ともに)かなりかけ離れたものであることが解明された。その上、“上火”は中医学の「科学専門用語」から「日常語」、さらに「便利語」に変遷していく中で、中日辞書に掲載されている意味項目「のぼせる」と「怒る」だけでは、多種多様なケースに対応できないことも判明した。

この問題を改善すべく、4.4.では“上火”の九つの類型を提示し、それぞれに対する和訳の提案を試みた。この九種類の用例を意味のカテゴリーを基準に、①中医学における原型(prototype)の意味(類型 1)、②中医学由来の身体的症状のカテゴリー(類型 2、3)、③中医学由来の精神的症状のカテゴリー(類型 4)、④その周辺的な意味(類型 5、6、7、8、9)と大まかに分けることができた。番号の順に、核心的な意味から遠ざかっていく。コーパスの256例文中、①②③の例文は併せても56程度で、多くはタイプ④に属し、111例文が観察された。また、④の用例では、精神的な症状を越えて、感情や性格の領域にまで意味が敷衍したと見ることができる。

“上火”の翻訳にあたっては、様々な用法、文脈に即して、柔軟に訳さなければならない。その重要さと難しさを改めて実感した。

注

- 1) 本論文においては、中国の著作名、著者名、コーパス名を中国語のまま表記する。中国語のみの場合、“ ”で表記する。日本語訳が付く場合、「()」で表記する。例えば、『师傅越来越幽默』、莫言、北京大学语料库、“上火”、「上火(のぼせる)」。
- 2) 例文は出典が注記されない場合は、全て「北京大学语料库(CCL)」より抽出したものである。

る。訳文は出典が注記されていない場合は、全て筆者訳である。

- 3) みかんを食べ過ぎると、「柑皮症(皮膚が黄色くなる)」になる恐れはあるが、それは“上火”の症状ではない。
- 4) 辞書では、“上火”は「動詞」と注記しているが、中国語では名詞と動詞の両方の品詞性を兼備する語は少なくない。症状を指す際には、「名詞」であり、その症状が起きるという意味で使われる時には、「動詞」である。一方、日本語では、「のぼせ」と「のぼせる」のように、名詞か動詞かは形態によって判断できる。
- 5) 辞書では、「儿」をつけ、つまり、“上火儿”と記述したうえで、方言として、「怒る」の意味になるとしている。しかし、実際のコーパスの例文中には、「怒る」の意味で使用される場合でも、“儿”がほとんど付いていない。「方言」ではない場合でも、「怒る」の意味で使用される例が多数ある。

参考文献

- 鳥飼玖美子(2004)『歴史をかえた誤訳』新潮社
- 平子義雄(1999)『翻訳の原理』大修館書店
- 吉田富夫訳・莫言著(2002)『至福の時 - 莫言中短編集』平凡社
- 吉田富夫訳・莫言著(2006)『四十一炮(上・下)』中央公論新社
- 包洁・汪琴静・李思敏・朱永福・陈宁宁・郑卫军・谢志军・范永升(2015)「“上火”诱导因素的病例对照研究」『中华中医药杂志』第30卷第4期 pp.1013-1016
- 何淼泉・鲍玺・温成平(2013)「火热证候的临床特征」『中华中医药杂志』03期 pp.791-792
- 莫言(2012)『师傅越来越幽默』上海文艺出版社
- 莫言(2003)『四十一炮』春风文艺出版社
- 钱苏海・钱俊华(2015)「中医“上火”的内涵、表述及其应用初探」『浙江中医药大学学报』第6期 pp.430-432, 435
- 魏云平・邓扬春(2019)「从“气”的角度防治“上火”探析」『浙江中医药大学学报』03期 pp.311-314
- 谢冠群・钱俊华・范永升(2017)「上火的由来、定义及其研究思路」『世界中医药』第12卷第12期 pp.2869-2871
- 赵梦璐(2015)「中国語の“上火”の日本語訳について」吉林财经大学修士論文

辞書

- 陈涛主编(1995)『新版日汉辞典』机械工业出版社
- 何九盈・王宁・董琨主编(2015)『辞源 第三版』商务印书馆
- 夏征农・陈至立主编(2009)『辞海』上海辞书出版社
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室编(2016)『现代汉语词典 第七版』商务印书馆
- 愛知大学中日大辞典編纂処編(1996)『中日大辞典』大修館書店
- 伊地智善継編(2002)『中国語辞典』白水社
- 倉石武四郎(1990)『岩波中国語辞典 簡体字版』岩波書店
- 尚永清編(1992)『中日辞典』小学館
- 松村明監修(2012)『大辞泉 第二版』小学館

山田忠雄等編(2012)『新明解国語辞典 第七版』三省堂
『ブリタニカ国際大百科事典電子辞書版』

コーパス

現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ) 少納言

<http://shonagon.ninjal.ac.jp> 国立国語研究所

北京大学语料库 (CCL)

http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus 北京大学中国语言学研究中心

北京语言大学语料库 (BCC)

<http://bcc.blcu.edu.cn> 大数据与语言教育研究所

WEB

一般社団法人日本女性心身医学会 (JSPOG)

http://www.jspog.com/general/details_32.html

メディカルノート (Medicalnote、現役の医師が運営する医療 Web メディア)

<https://medicalnote.jp/symptoms/>

時事メディカル

<https://medical.jiji.com/medical/006-1011-11>

ウキペディアフリー百科事典

<https://ja.wikipedia.org/wiki/>

百度百科

<https://baike.baidu.com/>

要旨

如何准确而精湛地将源于中医的“上火”一词翻译成日语呢？这个问题一直困扰着翻译者和汉语学习者。因为在查汉日词典的时候会发现，里面只有两个义项，一个是「のぼせる(头部充血，头昏脑胀)」¹⁾，一个是表示方言的「怒る(生气)」，造成大家都认为「のぼせる」是“上火”的日译的首选。可是，日语的「のぼせる」的语义比较窄，不能完全对应语义非常广的“上火”。

注¹⁾: 除此之外日语里还有“热中”、“冲昏头脑”、“激昂”等义。

为了证明两者在语义上的差异，本文首先依据中医学和日本现代医学文献以及各种词典中的记载，并且查询了语料库中使用“上火”和「のぼせる」例句，针对两者的定义、原因及症状进行了对比，发现两者的交集太少。根据语料库的例句出现频率，得到了造成“上火”的主要原因是日常生活的压力和饮食，而造成「のぼせる」的主要原因则是入浴和更年期的结果。在症状方面，观察结果显示，“上火”主要表现为嘴角起泡、便秘、牙疼及口腔溃疡。而「のぼせる」的症状主要只有面红这一点。其他发晕、牙龈肿痛、流鼻血这几个少数的身体特征也有提到，但例句寥寥无几。可见，非医学专家的普通中国人对“上火”的理解和普通日本人对「のぼせる」的理解差异如此之大，怎一个「のぼせる」就能

了得这个翻译难题？

本文还指出“上火”语义广的原因是它虽然源于“中医术语”（指大便干燥或鼻腔黏膜、口腔黏膜、结膜等发炎的症状），但在现代汉语中，它演变成了一个日常生活中的“常用词”。人们在使用这个词的过程中，也说不清是疾病还是一种亚健康状态，更不问原因和症状，只要身体不适或情绪有问题，都有随便说成“上火”的倾向。所以“上火”进而成了汉语里一个信手拈来的方便词使用起来特别方便的，自然而然语义扩展，那么要求翻译者在翻译成日语时一定要灵活，不要受其词源的束缚。

最后本文将“上火”句分成九种类型，从到典型义到周边义，从身体症状到精神症状再延申到感情和性格的义域，针对各种类型提出不同的翻译对策。特别要强调的有两点。第一，这九种类型中只有一种“上火”是可以翻译成「のぼせる」的，一种“上火”是可以翻译成「怒る」的，这说明即使词典在手也并非解决翻译问题的充分条件，词条在翻译面前有时也显得软弱无力。第二，否定式“不上火”，既有褒义（例：「落ち着きがいい」、「くよくよしない」），也有贬义（例：「真剣に受け止めない」、「のんき」）的用法，建议将其列入词典里的惯用表现中。此外，本文还提供了关于“不上火”的丰富的译法以供参考。

本文还举出了 2012 年度诺贝尔文学奖获得者莫言的小说的日译本中的“上火”的例子，其中包括错译和有争议译，更说明了这个问题不容忽视。

翻译论的最基本观点就是翻译的对象不是语言（词典里的静态的词条），而是语言行为（动态内容）。这不仅体现在句子篇章的翻译，语义广的词的翻译也同样涉及这个问题。“上火”一词的日语翻译就是最好的例子。